

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, spanning across the gutter of the book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. A small, illegible mark is visible above the second line from the right.





Handwritten marginal notes in a small script, possibly a shorthand or a specific dialect, located at the top of the page.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script and organized into several horizontal lines.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive script and organized into several horizontal lines.

سایه خورشید و ماه و ستاره ها  
در آسمان درازند

و در زمین گیاهان و درختان

و حیوانات و انسانها

همه را پروردگار آفریند

و همه را در روز قیامت حساب کند

و هر کس را بر او عیب باشد

در آن روز پشیمان کند

و هر کس را نیکوئی باشد

در آن روز شادمان کند

و هر کس را ایمان باشد

و هر کس را عمل صالح باشد

در آن روز پادشاه کند

و هر کس را کفر باشد

در آن روز سزاوار عذاب کند

و هر کس را ایمان و عمل صالح باشد

در آن روز پادشاه و پادشاهان کند

و هر کس را کفر و عمل بد باشد

در آن روز سزاوار عذاب و عذابان کند

و هر کس را ایمان و عمل صالح باشد

در آن روز پادشاه و پادشاهان کند

و هر کس را کفر و عمل بد باشد



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged paper and is organized into approximately 12 horizontal lines. Several lines are underlined with red ink, highlighting specific parts of the text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It consists of about 12 lines of text. The first line is underlined in red. The script is consistent with the one on the other page, suggesting they are part of the same document or a related set of notes. The ink is dark, and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink on aged paper. Several lines are underlined in red ink, indicating specific sections or important parts of the text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink on aged paper. Several lines are underlined in red ink, indicating specific sections or important parts of the text. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting. The text appears to be a continuation of the document on the previous page.







けし古今わらぬらするの事びわはあ  
えりしとくしとくしとくしとくしとく  
まあせとくしとくしとくしとくしとく  
あふしとくしとくしとくしとくしとく  
しとくしとくしとくしとくしとく  
まじりしとくしとくしとくしとくしとく  
秋の節のあふしとくしとくしとくしとく  
あふしとくしとくしとくしとくしとく  
のしとくしとくしとくしとくしとく  
この節のあふしとくしとくしとくしとく

ははあふしとくしとくしとくしとくしとく  
とくしとくしとくしとくしとくしとく  
あふしとくしとくしとくしとくしとく  
まじりしとくしとくしとくしとくしとく  
秋の節のあふしとくしとくしとくしとく  
あふしとくしとくしとくしとくしとく  
のしとくしとくしとくしとくしとく  
この節のあふしとくしとくしとくしとく

古今和歌集卷第一  
和歌集の巻目

古今和歌集の巻目  
和歌集の巻目

古今和歌集の巻目  
和歌集の巻目

序十

古今和歌集

和歌集の巻目

和歌集の巻目

和歌集の巻目

和歌集の巻目

和歌集の巻目

和歌集の巻目

和歌集の巻目

# 古今和歌集卷第一

## 春舟上

春の漢土ニテ春ノ字ノ下ニホニ字書キ(春)ウエメクト清ニ  
冬ヨリ温氣ニ寄リテ諸物ウケメクテ春ナレド本回ハ温氣  
ニ寄リテ草木カク一オト目ハルニ意

在原元方



春はらほほしけれふらのしと海はるかにいそいでいそいで  
まはららるるはるかにいそいでいそいで

紀貫之

神ひらちてむらびのたねをわらふはるかにいそいでいそいで

源

よみ人あはれに

春の船はるかにいそいでいそいで  
春の船はるかにいそいでいそいで

古今和歌集の巻目

古今和歌集の巻目

古今和歌集の巻目

古今和歌集の巻目

古今和歌集の巻目

二條のちかき花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

題一 清き

梅のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

春六日トハ東京

二條店のちかき花のうらみは清き  
雪のうらみは清き花のうらみは清き  
雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

雪のうらみは清き花のうらみは清き

春六日トハ東京  
春六日トハ東京

○寛平、四時ハ宇多天  
皇、御サニテ后ハ七條  
后温子、昭直ガ女ナリ

妻は始の年 しのびと見え

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

寛平、四時ハ宇多天

源中、いふ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

源中、いふ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

源中、いふ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

在原棟梁

○一本三  
最上、百丸はき有

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

あはれおのころのあはれおのころのあはれおのころ

口住古、野ヲ虎拂ヒニナリ  
江戸、上流ニ馬止井有  
源中、いふ

源中、いふ

歌にまじりてはるかに  
はるかに

春日野にまじりてはるかに  
はるかに

貴平治のまじりてはるかに  
はるかに

源にまじりてはるかに  
はるかに

我せが家たるはるかに  
はるかに

傳の遍服

わが深きまじりてはるかに  
はるかに

かたはらまじりてはるかに  
はるかに

凡河内船恒

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

梅乃花成よめる 伊勢

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

梅乃花成よめる 伊勢

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

梅乃花成よめる 伊勢

東山書院の如くありてはしるしを

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

梅乃花成よめる 伊勢

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

梅乃花成よめる 伊勢

東山書院の如くありてはしるしを

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

梅乃花成よめる 伊勢

東山書院の如くありてはしるしを

まじり居るくは古書（巻一）の如くありてはしるしを

梅乃花成よめる 伊勢



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, located on the right page of the notebook.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page or as a separate entry, located on the left page of the notebook.

Handwritten text in a cursive script, located on the right page of the notebook, possibly a continuation or a separate entry.

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

様もたかいのいのちをきくまにわたるのどきあふむかひは  
はらの花はつるのむし——*the soul of God*  
をきくつるものあふむ

くまをくちくち

あふむくものあふむくまをきく様もきくまをきくものあふむく  
は——  
なをひらたむ

くまをきくものあふむくまをきく様もきくまをきくものあふむく  
あふ——  
あふむくまをきく

あふむくまをきくものあふむくまをきく様もきくまをきくものあふむく  
あふむくまをきくものあふむくまをきく

あふむくまをきく

様もきくまをきくものあふむくまをきくものあふむく  
あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく  
あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく

みくち

あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく  
あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく  
あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく

伊勢

あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく  
あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく  
あふむくまをきくものあふむくまをきくものあふむく

古今和歌集卷第二

春舟下

題 一 〇

一〇 〇

春舟下あびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく  
あそびくしの様むらりんとやさうらめゆく

借の遍照よみくおくりける

これとれみ

梯花ちふちあえらふはまのこまへまのこまへ

雪を林流まはらふのこまへまのこまへ

よめる

こまへまのこまへ

梯ら花のこまへまのこまへまのこまへ

梯のこまへのつらみくよるんる

こまへまのこまへ

花ちのこまへのつらみくよるんる

こまへまのこまへのつらみくよるんる

こまへまのこまへ

いざ梯我もちのこまへのつらみくよるんる

あひ—つらみくよるんる

つらみくよるんる

こまへまのこまへ

ひいあひ—つらみくよるんる

つらみくよるんる

春を流まはらふのこまへまのこまへ

つらみくよるんる

あひ—つらみくよるんる

だまを流まはらふのこまへまのこまへ

よめる

こまへまのこまへ

キも花もていふのゆへに花も結一様なる方になり  
東交の雅流ぬく様乃花のみらあはちりて  
あざれくる残えしよある

よがしき花

おろりもあがぬ教も花をけりてあはしよあはちりて  
様もむのちりる残よあは

よがしき花

あはちりるゆへに花も結一様なる方になり  
様もむのちりる残よあは  
上

さうれ花のちりる残よあは

よがしき花

さうれ花のちりる残よあは  
東交のちりる残よあは  
ちりる残よあは  
さうれ花のちりる残よあは

よがしき花

さうれ花のちりる残よあは  
よがしき花

たしき  
あはちりる残  
よがしき花

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten characters, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text in cursive script, continuing the document's content.

Handwritten text in cursive script, including a horizontal line.

Handwritten text in cursive script, appearing as a list or series of entries.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a specific note.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or a specific reference.

Handwritten characters, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text in cursive script, continuing the document's content.

Handwritten characters, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text in cursive script, continuing the document's content.

Handwritten characters, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text in cursive script, continuing the document's content.

子野 子野

あはれなる心ぞよきとて  
あはれなる心ぞよきとて

典侍治子朝長

あはれなる心ぞよきとて  
あはれなる心ぞよきとて

友原後蔭

あはれなる心ぞよきとて  
あはれなる心ぞよきとて

あはれ

あはれなる心ぞよきとて  
あはれなる心ぞよきとて

あはれ

あはれなる心ぞよきとて  
あはれなる心ぞよきとて

あはれなる心ぞよきとて  
あはれなる心ぞよきとて

子野 子野

あはれなる心ぞよきとて  
あはれなる心ぞよきとて

仁和の中程の事からしての事の合  
くわんせいの事

りた

くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合

りた

くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合

くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合

###

くわんせいの事からしての事の合

くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合

くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合

徳田編昭

くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合  
くわんせいの事からしての事の合

あつちの城よるをいれ

みりや

我若もあつちの城よるをいれ

あつち

よるをいれ

今もあつちの城よるをいれ

あつちの城よるをいれ

あつちの城よるをいれ

あつちの城よるをいれ

あつちの城よるをいれ

あつちの城よるをいれ

あつち

あつち

あつちの城よるをいれ

あつちの城よるをいれ

あつち

あつちの城よるをいれ

あつち

あつちの城よるをいれ

あつちの城よるをいれ

あつち

あつちの城よるをいれ

Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso  
Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso  
Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso  
Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso

Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso  
Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso

Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso  
Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso Amoroso

寛平二年 徳田氏の御代

徳田氏の御代

徳田氏の御代 徳田氏の御代 徳田氏の御代  
徳田氏の御代 徳田氏の御代 徳田氏の御代  
徳田氏の御代 徳田氏の御代 徳田氏の御代

徳田氏の御代

徳田氏の御代 徳田氏の御代 徳田氏の御代  
徳田氏の御代 徳田氏の御代 徳田氏の御代  
徳田氏の御代 徳田氏の御代 徳田氏の御代  
徳田氏の御代 徳田氏の御代 徳田氏の御代

あつしんがきひしちちの年たゆまぬさくらさくらさくらさくら  
亭子院乃新合の喜のたてのい

~~~~~

~~~~~

古今和歌集卷第三

夏尋

題~~~~後人志

我やどの地の者あるはなまのり山都ぶつら木あらん

この言あはれいふらんたの人の後の也

うげいさるんさるんさるんさるん

~~~~~

あつしんがきひしちちの年たゆまぬさくらさくらさくらさくら

~~~~~

~~~~~



星野の字體は、  
今は、  
今は、

全よ、  
寛平五年

今は、  
今は、

今は、

今は、

今は、

今は、

今は、

今は、

今は、





とあつたふりかへのちあつたふりかへ  
ちかみてけいせいのちかみてけいせいの

あつた

ちかみてけいせいのちかみてけいせいの  
ちかみてけいせいのちかみてけいせいの

ちかみてけいせいのちかみてけいせいの

古今和歌集巻第四

秋歌上

輝立日よあはれ 若原敏行朝臣

秋もあつたふりかへのちあつたふりかへ

秋もあつたふりかへのちあつたふりかへ

えいせいせいせいせいせいせいせい

せいせい

かみよのちかみよのちかみよのちかみよ

かみよのちかみよのちかみよのちかみよ

わがもろのちかみよのちかみよのちかみよ

昭目とうあるはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
秋風の吹く一日うらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
ふこのあはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
天門もみらばうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
急くてあはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
寛平清盛十日の秋うらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
秋うらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
よめる  
あはれのいまはなをたて秋風の吹  
天門あはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
あはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹

故原わぶら男

笑りらんづつ一織女の年よとびおはあはうら  
なぬの目乃頼もあは

九何因うら

年毎よあはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
織女よがはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
題あはれ  
うせら  
こもひらんよあはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
あはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹  
源じゆめあはれはうらうらうのいまはなをたて秋風の吹



月をたれちるおもふれ我もなほの秋はあはれ

たゞの

るを月うつも殊に程みちなむてのまはん

月夜もほ 在るえち

秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

人 *Constance* の秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ  
なほなほよまあはれ

藤原たけな

養つゝあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

是身のみち乃家れあ合のせい

かゆふれ給た

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

秋 秋 秋

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

秋はあつらひの秋の秋の月うつあつらひのよまあはれ

目録  
一、  
二、  
三、

在在え方

結句  
一、  
二、  
三、

一、

解題  
一、  
二、  
三、

一、  
二、  
三、

一、  
二、  
三、

寛平御時

一、

一、  
二、  
三、

一、

一、  
二、  
三、

きりぎりす

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

秋の風も涼しくもなほ秋の風も涼しくもなほ

蘇がむらりん小舟の落をわたりぬまていづゆんまはらふら  
是員乃みこれ家の弁合りよめ侍

又屋あまむに

秋北野よわく自落りおもむつあはらるる懸のいんせら

題——いづが 備前通昭

名よあぞいおむるづつこ女は花はれあらよまのいかにあ

備前通昭がもいんせらあまらるる時をさし

ゆよとくまあ——いづがいんせら

あまのいんせら

如らむいんせらいづがいんせらいんせらいんせらいんせら

是員のみこの家れあ合のい

あまのいんせら

秋北野よわく自落りおもむつあはらるる懸のいんせら

題——いづが 備前通昭

名よあぞいおむるづつこ女は花はれあらよまのいかにあ

備前通昭がもいんせらあまらるる時をさし

ゆよとくまあ——いづがいんせら

如らむいんせらいづがいんせらいんせらいんせらいんせら

あまのいんせら

蘇がむらりん小舟の落をわたりぬまていづゆんまはらふら



~~~~~

たが秋よあはぬおもひの女もあはれむらさきもあはれむらさき

~~~~~

妻とつる麻とひるまのさしあはれむらさきもあはれむらさき  
女もあはれむらさきの秋もあはれむらさき

~~~~~

人の心もあはれむらさきの女もあはれむらさき  
ひるまのさしあはれむらさきの女もあはれむらさき  
おもしろくあはれむらさきの女もあはれむらさき  
くらくらあはれむらさき

~~~~~

おもしろくあはれむらさきの女もあはれむらさき  
寛平沸時あはれむらさきの女もあはれむらさき  
花みんとあはれむらさきの女もあはれむらさき  
あはれむらさきの女もあはれむらさき

~~~~~

花よあはれむらさきの女もあはれむらさき  
と清はれむらさきの女もあはれむらさき

~~~~~

あはれむらさきの女もあはれむらさき

おぼろげな月夜よみくははらり

はらり

海ぞのせいのかえり者ぞうゆきぬれはもよひついで  
うららぐはらり

こから

ぬちぬちとわたりてはたのけまたがぬきよき者ぞうゆきぞ

平貞文

今よりかきとよんで花唐やよづる秋らびりりり

寛永沖時たつたのまはる合のい

あつたむらび

娘の持世のまはる花まははるおとまへく神もん

素村法師

おぼろげな月夜よみくははらり

はらり

みづのあつたつちおとまへくははるのまはるはらり  
百ちまのたのひもく秋のせは思ひつらぬんかた

日若れなまはるんあはれおぼろげのほらりいぬい

仁おのみにんりおり

海は清んぞとており

母の家よせいの海はらり

古今和歌集卷中  
秋歌下

伊勢編昭

古今和歌集卷中  
秋歌下

古今和歌集卷中

秋歌下

伊勢編昭

伊勢編昭

古今和歌集卷中  
秋歌下

伊勢編昭

伊勢編昭

古今和歌集卷中  
秋歌下

伊勢編昭

勢なきしうのそらもみゆる岸島の舟の舟をみくらうぬん  
神皇月射あもさるい海もあはれいんらう神皇の御  
ちかあ神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
貞観の清和天皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
ありあういんらう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
えくらういんらう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん

菖蒲の作あん

あはれいんらう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
らう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん

らう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん

神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
らう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん

らう神皇の御あはれいん

白雲の御あはれいんらう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
らう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん

秋の神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
らう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん

秋の神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん  
らう神皇の御あはれいんらう神皇の御あはれいん

その白

ちよひたのぼるるはなふりしそむらふ

秋のしづかに

あふみけを

あふみけをのぼるるはなふりしそむらふ

神のまはりのまはりのまはりのまはりの

うらみかたしるる

あふみ

ちよひたのぼるるはなふりしそむらふ

是のまはりのまはりのまはりのまはりの

あふみ

あふみけをのぼるるはなふりしそむらふ

寛平一清のまはりのまはりのまはりの

あふみ

ちよひたのぼるるはなふりしそむらふ

大和のまはりのまはりのまはりのまはりの

あふみけをのぼるる

あふみ

あふみけをのぼるるはなふりしそむらふ

あふみのまはりのまはりのまはりの

〜名伊物

煉乳が今細いものも出て来たのでお母さんお父さん  
お二人ともお喜びです

お二人様のこと

お二人様のお喜びのほどは  
お二人様のお喜びのほどは

お二人様のこと

お二人様のお喜びのほどは  
お二人様のお喜びのほどは

お二人様のこと

お二人様のお喜びのほどは  
お二人様のお喜びのほどは

お二人様のこと

お二人様のお喜びのほどは  
お二人様のお喜びのほどは

お二人様のこと

お二人様のお喜びのほどは  
お二人様のお喜びのほどは

甲子年菊は花はあつたがうらなひはしつかりなつたがうらなひは  
あげのうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは

十月廿九日

秋風の吹よふころ白菊もあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
伝ふ菊はあつたがうらなひはあつたがうらなひは

葉牡丹

あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
菊のつぼみはあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは

あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは

あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは

あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは

あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは

十月廿九日

あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは  
あつたがうらなひはあつたがうらなひはあつたがうらなひは

きつりつる菊の菊はびりせはあまびい白の花はさうさ  
仁利の菊は花あーくくはあまびい半さく  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
くわ

平あまびい

秋とあまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
人のあまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい

あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい

あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい

あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい

茶原園雄

あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい

あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい

あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい  
あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい

あまびいあまびいあまびいあまびいあまびいあまびい



秋風あけび散あるとみらたむらしきもあわれむ  
 秋いあふる葉もいほしきあはれもあはれ  
 ぬもあはれいほしきあはれもあはれ  
 舞の月影あはれいほしきあはれ  
 の月影あはれいほしきあはれ  
 舞の月影あはれいほしきあはれ

かたむね

傳る通昭

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

二葉の店のをあはれむるまもあはれむる時  
 は屏風  
 二葉の店のをあはれむるまもあはれむる時  
 は屏風

かたむね

ちちあはれむるまもあはれむるまもあはれむるまも  
 早急あはれむるまもあはれむるまもあはれむるまも

かたむね

我まはれむるまもあはれむるまもあはれむるまも  
 たむね

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

海へゆかぬ

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

秋の山

秋の山

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

秋の山

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

秋の山

秋の山

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

秋の山

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

秋の山

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ  
秋の山お葉茂むさへ

世のさゝかきあはれなるもの  
まじり

何れあつたかきあはれなるもの  
喜子院の浄屏風の繪より  
すゝ人のあはれなるもの  
いづれあつたかきあはれなるもの  
いづれあつたかきあはれなるもの  
いづれあつたかきあはれなるもの  
いづれあつたかきあはれなるもの

まじり

世のさゝかきあはれなるもの  
まじり

題あはれ

まじり

ほのぼのあはれなるもの  
かきあはれなるもの  
かきあはれなるもの  
かきあはれなるもの  
まじり

まじり  
實平は時々のあはれなるもの  
まじり  
まじり  
まじり  
まじり

御宇よのちららるる米のむらにけしむのむらにけしむ  
御のちららるる米のむらにけしむのむらにけしむ  
けしむのむらにけしむのむらにけしむ

けしむのむらにけしむのむらにけしむ  
けしむのむらにけしむのむらにけしむ  
けしむのむらにけしむのむらにけしむ  
けしむのむらにけしむのむらにけしむ

けしむのむらにけしむのむらにけしむ

古今和歌集卷第六

冬哥

題一 山 一人 志 歌

新田川 山六帖 新田川 山六帖 新田川 山六帖

冬のまゝとふあは

源集十歌

源集十歌 源集十歌 源集十歌

題一 山 一人 志 歌

大和乃月の夜にまをさすけしむのむらにけしむ  
大和乃月の夜にまをさすけしむのむらにけしむ

Handwritten text in cursive script, first line on the left page.

Handwritten text in cursive script, second line on the left page.

Handwritten text in cursive script, third line on the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line on the left page.

絶あふた

Handwritten text in cursive script, first line on the right page.

絶あふた

Handwritten text in cursive script, second line on the right page.

昔乃らるる花のよも

花のよも

昔乃らるる花のよも  
花のよも

花のよも

昔乃らるる花のよも  
花のよも

花のよも

昔乃らるる花のよも  
花のよも

1841

乃乃らるる花のよも

花のよも

昔乃らるる花のよも

花のよも

花のよも

昔乃らるる花のよも  
花のよも

花のよも

花のよも

昔乃らるる花のよも

花のよも

茶の香りにあはれぬ心は  
あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

あはれぬ心はあはれぬ心は

中つまは 地のついで  
近年のどよめきを中つに鏡見るげはよれおれぞ

古今和歌集卷第七

賀正

題名

讀み

秋をの世にやちをいふれぬのそをめで  
見ら海の後には秋をいつもがらもあひなせ  
きのおきで乃秋をいふもあはれやちをめで  
わが歡をむらひのそをめであはれをいふ  
仁和の時傳の遍照は七十乃かたはる

時の傳

かきつゝもかたはるをめであはれをいふ



仁和のみとれみくもりまきくらの町は  
おどろ八十乃賀よ志るゆはつあより歌り  
くるはみくはれはおどろりゆてよある

偽の備昭

ちのびる群衆ならんくちのばはまにぬけし也  
おのろをれおのろまらぎきの甲子賀九條  
乃家こそくくらの町よよめは

在来業平の歌

櫛花ちりひくれむいれんららあるなまかぶるよ  
こころのたのみこのおどろの甲子賀と大井

よそちの町ある  
おれこれある

櫛花のちりひくれむいれんららあるなまかぶるよ  
こころのたのみこのおどろの甲子賀と大井  
よそちの町ある  
おれこれある

友原乃おどろせ

徒よおどろおどろおどろおどろおどろおどろ  
おどろおどろおどろおどろおどろおどろ  
おどろおどろおどろおどろおどろおどろ

まらぬおどろおどろおどろおどろおどろおどろ

嘉村法師

いふはあつたわづらひのうらみはたかきまはるる  
あて思ひあはせしむる世に神ぞあるらんわづらひはあ  
な原三の昔うたがふよそみたる

在原まげなは

はるあつたわづらひはたかきまはるるよそみたる  
のうらみはたかきまはるるよそみたる  
よそみたるよそみたるよそみたる  
よそみたるよそみたるよそみたる  
よそみたるよそみたるよそみたる

万代をまじりてよそみたるよそみたるよそみたる

由信のうらみはたかきまはるるよそみたる  
時はまじりてよそみたるよそみたるよそみたる  
よそみたるよそみたるよそみたる

春

春日野のうらみはたかきまはるるよそみたる  
よそみたるよそみたるよそみたる

山つらきわがよそみたるよそみたるよそみたる  
よそみたるよそみたるよそみたる

あつたわづらひのうらみはたかきまはるる  
よそみたるよそみたるよそみたる

秋

あつたわづらひ

任の江乃松と梅肉吹くくはる魚舟そよむ花の白浪

~~~~~

あまのこころをたしむる花の白浪の舟の白浪の舟

~~~~~

秋のけしきをうらみたるはるの舟の白浪の舟

~~~~~

白雲のけしきをうらみたるはるの舟の白浪の舟

~~~~~

~~~~~

春のけしきをうらみたるはるの舟の白浪の舟

古今和歌集卷中八

離別歌

~~~~~

在原行平約た

立ちしれあふたの歌はあはれなるはるの舟の白浪の舟

~~~~~

すまはちの秋の暮る舟の白浪の舟

かきつるあはれなるはるの舟の白浪の舟

~~~~~

~~~~~

たしむるあはれなるはるの舟の白浪の舟

Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of approximately 10 lines of text.

Small handwritten mark or signature.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of approximately 10 lines of text.

Small handwritten mark or signature.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written in a fluid, connected style. It appears to be a list of items or a record of transactions, possibly related to a business or a household. The words are difficult to decipher due to the cursive nature of the script.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It appears to be a list of items or a record of transactions, possibly related to a business or a household. The words are difficult to decipher due to the cursive nature of the script.



人の心をよき道に導くは  
徳の通照

徳は心よき道に導くは  
徳の通照

徳は心よき道に導くは  
徳の通照

徳の通照

徳の通照

徳の通照  
徳の通照

徳の通照

徳の通照  
徳の通照

徳の通照



秋のたのしみはあはれ  
いづれかきつる

あき

晴むん人の心はあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

あき

あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

あき

あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

古今和歌集卷第九

羅娘舟

とらうらまて月とみてしるんまは

安倍仲磨

あはれあつらひけれま日あるみらふれ山も舟一月も  
こはこむあまらまらうらまらうらまら  
あうらまらうらまらうらまらうらまら  
年一渡してさうらのまらうらまら  
のらまらうらまらうらまらうらまら  
たぐひてまらうらまらうらまらうらまら



あつちのうらなひをいふ

君おたづねの事うらなひの事いふにあらはせ  
歌———  
うらなひの事

水は流るるもあつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ  
あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

あつちのうらなひの事いふにあらはせ

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text below the first line on the right page.

Main body of handwritten text on the right page, starting with a large initial letter.

Handwritten text below the main body on the right page.

Second main body of handwritten text on the right page.

Handwritten text below the second main body on the right page.

Third main body of handwritten text on the right page.

Handwritten text below the third main body on the right page.

Main body of handwritten text on the left page, starting with a large initial letter.

Second main body of handwritten text on the left page.

Third main body of handwritten text on the left page.

Fourth main body of handwritten text on the left page.

Fifth main body of handwritten text on the left page.

Sixth main body of handwritten text on the left page.



〜

〜

おぼろげな夢をみるよみかたは

かみかき

〜

あしきふくしむる心は

ふもとの

今こそはたしむる心は

かみかき

〜

あふみかたは

かみかき

〜

あふみかたは

あふみかたは

〜

あふみかたは

あふみかたは

〜

あふみかたは

あふみかたは

〜

あふみかたは

あふみかたは

あふみかたは

偽ら通照

あふみかたは

あふみかたは

海に身をまかせ

我々の心は、*My heart is full of love for you*

をめぐりて — *around you*

白雲とあまのこは、*White clouds and the child*  
おつゆは、*the child*

米菴院の、*Michizane's temple*

の、*of*

は、*is*

と、*and*

の、*of*

あまのこは、*the child*

あまのこ

の、*of*

あまのこは、*the child*

の、*of*

あまのこは、*the child*

を、*with*

は、*is*

あまのこは、*the child*

を、*with*

は、*is*

あまのこは、*the child*

の、*of*

あまのこは、*the child*



かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかき

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

かきかき

かきかき

らちあゝ時まらまらうひの海あるふを幾たりか  
な—あまらばと

共鳴

あらたあまらばとあまらばとあまらばと  
か~~~~~

安倍清行物

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと  
あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと  
あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

伊勢

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

あまらばとあまらばとあまらばとあまらばと

源

秋の月夜に思ふに  
あはれなるものぞ

百和書

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

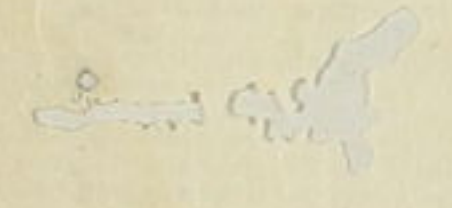
あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

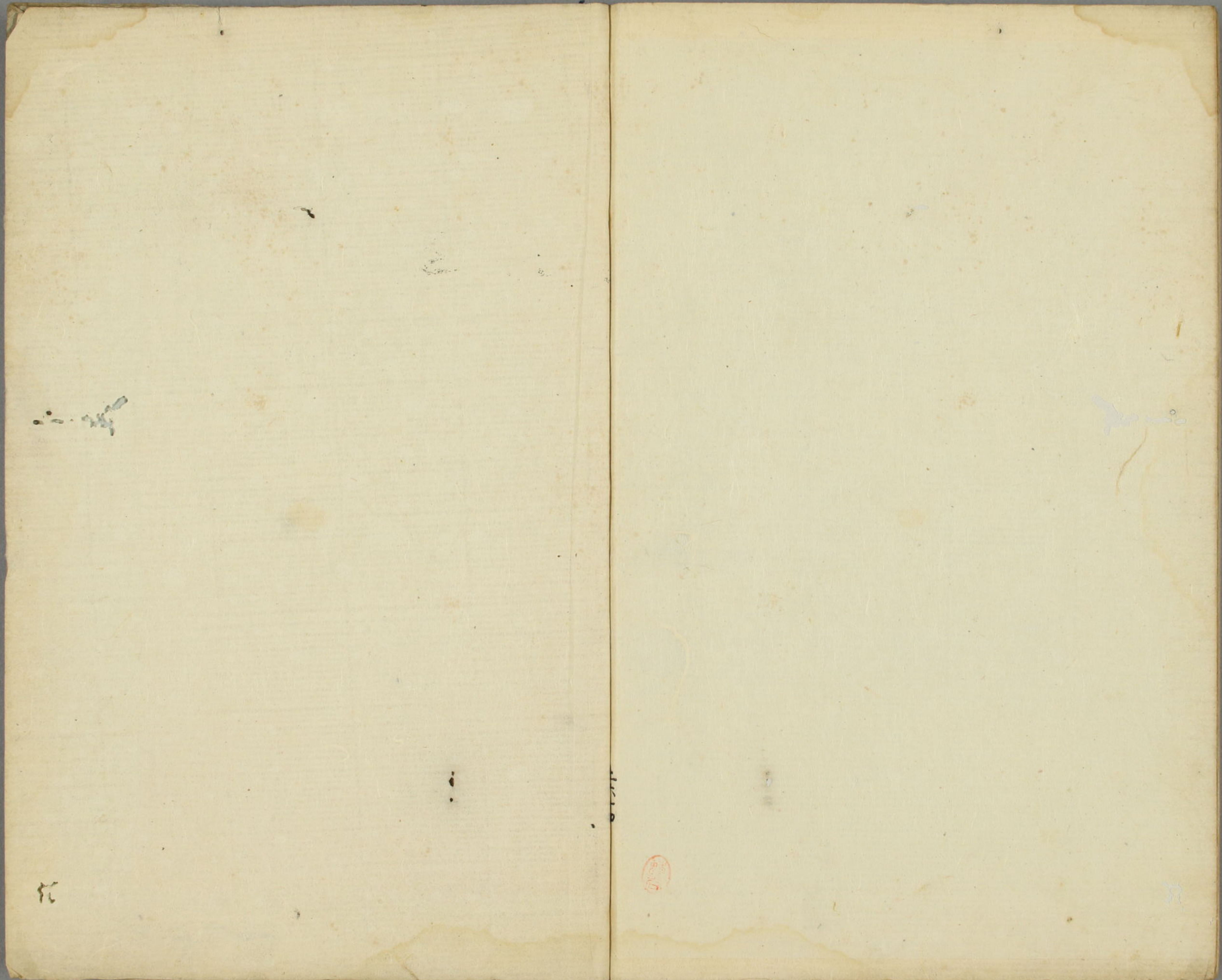
あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ

あはれなるものぞ  
あはれなるものぞ





*[Faint pencil scribble]*

*[Faint pencil scribble]*

*[Faint pencil scribble]*

55

1878

*[Red circular stamp]*

